

## 第70回「ハートミーティング」意見交換の内容について

### 第1期「観光ワーキングチーム」のメンバー

---

#### ★市長からのコメント

- 京都の観光については、訪問者は順調に増加しているが、市民の方々の豊かさや、伝統産業・文化の振興になかなか結びついていない。京都で働く人の生活を潤おし、千年先を見通した、持続可能なほんまもんの観光をいかに振興させていくか考えることが重要だ。
- 京都は神社、寺院、伝統文化、芸術、食、お酒など夜観光の聖地となるような素晴らしい要素がたくさんある。今後、更なる閑散期の対策やアピールできていない魅力を発信していく必要がある。
- 世界中の人々が訪れたいと感じている場所に暮らしている我々が、その魅力を最大限堪能し、伝えていくことで、自らの人生も豊かになり、同時におもてなしの技術も向上すると考える。
- 文化を守るだけではなく、どんどん新たなことを創造していかなければ、伝統産業や地場産業は元気にならない。皆さんも、リスクを恐れず、冒険心をもってチャレンジしてほしい。
- 今回のプロジェクトの活動は、自分の仕事の枠を超え、今と未来を真剣に考えて、知恵を重ねたことだろう。できないこともあるが、その経験や過程は必ず他の仕事に生きてくる。それぞれの仕事、同時に一人一人の豊かな人生に活かしてくれることを願っている。

★参加メンバーからの主な声

- 京都の観光資源をアピールするには、まず職員自身が体験して、職員から発信していくことが大切であるということが、非常に印象に残りました。私自身がまず京都の観光資源の魅力を感じ、その魅力を発信していけるように多くの知識と経験を積みたいと思いました。
- 我々の活動内容に対して、市長から予想以上の評価をいただけたことは、今後も職員として様々な活動をしていくうえでの大きな励みになりました。今回の経験を踏まえ、今後も京都市の抱える諸々の問題に対して、主体的に率先して取り組んでいこうと思います。
- 京都市と市民の方々への市長の情熱を感じ取ることができ、「やる気スイッチ」が入ったような気がします。ハートミーティングに参加して入った「やる気スイッチ」を、今後の自分の業務、ひいては京都市民及び京都に関わるお客様全ての満足度向上のために活かしていけるように努力していきたいと思えます。
- ひとつのツアーを企画する中で、チーム員と意見がぶつかったり、思いもよらない壁にぶち当たったりと、苦労することもありましたが、こうして取組を無事にやり遂げることができたことは、自身の成長にもつながったと思います。また、分野は違いますが、今回経験させていただいたことを自分の業務にも活かしていけたらと思います。
- 市長のお話の中で「百年先、千年先の京都を見越す」という表現がありましたが、京都市職員として職務を行うに当たって、そういう意識を持ちつつ仕事をすることは大切だと感じました。